

出会いの瞬間 (前期)

二月と言えば、みんな大好きバレンタインですよ！今回は、バレンタインにちなんで恋愛小説を集めてみました

『ケーキ王子の名推理』

ケーキ好きの女子高生・未羽。



そんな未羽は失恋をしてしまい、その悲しみを癒すためにケーキ屋へ。そこにはパティシエ修行をする学校一のイケメン、颯人の姿が。新しい恋の予感が始まった二人の青春スペシヤリテです。

『君の臍臓をたべたい』 住野よる

主人公の春樹は、手術のために行った病院で「共病文庫」という本を見つける。その本は、明るく洗練としたクラスメイトの物だった。これから、この二人の関係性が変わっていく…。悲しい恋の話。

『植物図鑑』 有川浩

ある冬の夜、仕事も恋愛もうまくいってないさやか目の前に倒れていた青年樹。思いがけない出会いから始まった二人の「半年」期限付きの同居生活。樹にはさやかに伝えられない秘密があつて…。

『ぼくは明日、昨日の君と』

デートする 七月隆文



京都の美大に通うぼくが一目惚れした女の子。意を決して声をかけ、交際にごさ着けた。でも彼女には想像できない秘密が隠されていて…。奇跡の運命で結ばれた二人を描く、甘く切ない恋愛小説。

(三) 年



図書委員のおすすめ

二月十四日より、第六十作NHK大河ドラマ「青天を衝け」が始まりました。そこで、今回は今後の大河ドラマの主人公とその誕生日について調べてみました。

渋沢栄一 (吉沢亮)

日本の近代化を支えた「日本主義の父」と呼ばれる人物。第一国立銀行をはじめ五百以上の会社の設立に関わり、経済界の最高指導者として、長く活躍した。

〈誕生日〉三月十六日

・常識を飛び越えた規格外のスケールで生きる人

北条義時 (小栗旬)

鎌倉時代末期の武将。鎌倉幕府の二代執権。義時が十五、六歳の時に、伊豆の流人であった源頼朝の妻に姉北条政子となる。

〈誕生日〉七月一日

・仲間を大切にするシャイでやさしい平和主義者

徳川家康 (松本潤)

戦国時代に活躍した武将。江戸幕府をつくり、百年以上も内戦が続いた戦国時代を終わらせ、江戸時代という平和な時代を実現した。

〈誕生日〉一月三十一日

・創造性に優れ高い理想を持ったまじめ役。統括能力に長け社交性もある。

参考文献：誕生日大事典・NHK HP (二) 年

新刊紹介

『元女子高生パパになる』 杉山 文野
『ブラック・シヨーマンと名もなき町の殺人』 東野 圭吾

『お探し物は図書館まで』 青山美智子
『泣きたい私は猫をかぶる』 岩佐まもる

『月の光―川の光外伝』 松浦 寿輝
『おばちゃんたちのいるところ』 松田青子

『鍵のかかった部屋』 貴志 祐介
『ひきこもれ』 吉本 隆明

『本日のメニューは。』 行成 薫
『僕はイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 フレイディみかこ

『ポケット版ウォーリアーズ(全6巻)』
『ポケット版ウォーリアーズ第二期(全6巻)』 エリン・ハンター

『戦国の図書館』 新藤 透
『青春の本棚』 高見 京子

『暗闇にレンズ』 高山羽根子
『考える読書―第65回青少年読書感想文コンクール入賞作品集』

『マナーはいらない』 三浦しをん
『共鳴する未来』 宮田 治章

『スマホ脳』 ハンセン・アンディシユ
『心淋し川』 西條 那加

『名も無き世界のエンドロール』 行成 薫
『彩無き世界のノスタルジア』 行成 薫

『オルタネート』 加藤シゲアキ
『タミミを救え！へ上へ下』 松浦 寿輝

『箱の折り紙』 布施 知子
『滅びの前のシャングリラ』 凧良 ゆう

『ダリウスは今日も生きびら』 矢野龍渓

(一) 年

編集後記

最近我が家に石油ストープがやってきた。ストープが来て我が家の猫たちは大歓迎。毎日石油ストープの前で我が物顔で寝転んでいる。ある時には重箱すわりで、ある時には脇を大きく開き見せつけるかのような仰向けで。猫たちは自分だけが使うものではないのに堂々と使っている。それなのに怒られない。なぜなら猫だから。そう猫だから。猫というのは素晴らしい。まず目がきれい。私の家猫は一匹がシャムネコの血が入った青い目をしていて、もう一匹は緑色をしている。緑と青で色が似ているところから兄弟であることを思わせる。次に、悠々自適を我が道に行っているところ。あの、今することしか考えていないようなあの感じ、ほんわかとして周りを巻き込んで和ませるようなあの感じ。とても良い。最後に猫は可愛い。あれやこれやと理由を並べたが、やはり理由は一つ。猫は可愛い。人間用の飯をテーブルに置くこと一目散にかけていき食い逃げをして怒られる。そんな憎たらしいところもまた好き、いやそこは嫌いだ。ともかく猫はいい。主人を守ろうとはしないが、寂しがってはくれる。そういうツンデシなところは犬にはない。(委員長長)